

2019年2月11日

内閣総理大臣 安倍晋三 殿

〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 1-23-14
日本同盟基督教団「教会と国家」委員会
委員長 柴田智悦

首相の伊勢神宮参拝に対する抗議声明

私ども日本同盟基督教団「教会と国家」委員会は、2019年1月4日、安倍首相が閣僚らと伊勢神宮を参拝したことに對して以下の理由で強く抗議いたします。

1. 抗議の対象とする事実

安倍首相は2019年1月4日午後、11名の閣僚らと伊勢神宮を参拝し神楽殿で神楽を奉納しました。その後、伊勢神宮内宮の神宮司庁で年頭記者会見に臨み、まず60年前に日米安保条約の改定交渉が行われたことに触れてから、外交、消費税の引上げ、社会保障など今年の政権運営に関する見解を述べ、天皇の生前退位に伴う新元号の公表時期を正式に発表しました。参拝の様子と年頭の挨拶は、首相官邸の公式ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターなどSNSアカウントから発信されました。なお、安倍首相の伊勢神宮参拝は、第二次政権発足後7年連続で行われています。

2. 抗議の理由

伊勢神宮は皇祖神の天照大御神を祀った神社であって、皇室神道の存立の基礎であり基盤です。戦前・戦中においては国家神道の本宗であり、現代においても神社本庁下における全神社の本宗として崇敬され、社格のない別格の神社として位置しています。そのような神道の最高位の施設であり、天皇の祖先を祀っている伊勢神宮に、政治における最高権力者である内閣総理大臣が閣僚らと参拝し、参拝後に年頭記者会見を行ったことは、私的参拝ではなく公務における仕事始めとして伊勢神宮を参拝したことに等しく、国の機関による宗教的活動と言わざるを得ません。従ってその行為は、政教分離を定めた憲法20条3項および89条に明確に違反しています。

ことに伊勢神宮は、かつて日本が犯した侵略戦争と植民地支配に深く関わっており、靖国神社とともに侵略戦争と植民地支配推進の精神的支柱であった神社です。そのような歴史を持つ伊勢神宮に首相が参拝することは、かつての侵略戦争と植民地支配を肯定し、軍国主義の復活を彷彿とさせるものです。

私ども日本同盟基督教団は、戦前・戦中、神社参拝強要に抗えずに偶像礼拝を犯した罪と、日本のアジア諸国に対する侵略戦争と植民地支配に協力した罪を告白し悔い改めました。その悔い改めに立ち、再び同じ過ちを繰り返さないために、日本が信教の自由と政教分離の原則、また戦争放棄と軍備及び交戦権の否認を定めた日本国憲法の基本理念に立ち返るべきことを強く求めます。その上で、もし国家がその原則を逸脱するならば、それが誤りであると警告を与えることこそが私たちの使命であり、この国が神の前に正しく歩み、神からの祝福を受けるために必要なことだと確信しています。

以上の理由から、毎年恒例のようになされている首相の伊勢神宮参拝が国の基本原則を逸脱しており、やがて私たちの信仰の自由を犯す時代を招きかねないことを危惧して、安倍首相が閣僚らと伊勢神宮を参拝したことに對し強く抗議するものです。

「人の子よ。わたしはあなたをイスラエルの家の見張りとした。あなたは、わたしの口からことばを聞き、わたしに代わって彼らに警告を与えよ。」(旧約聖書 エゼキエル書3:17)